

明日をきりひらく子どもたちへ、 世界の今と未来について 考えるキッカケを。



持続可能な世界を次世代に渡していくことは、大人の責任。

そして、そのような考え方を、子どもたちに伝えていくこともまた大切です。
明日をになう子どもたちが、教室の中だけでなく学校生活のいろいろな場面で
SDGsというものにふれ、興味をいだき、考える。そのキッカケとなることを
『SDGsをさがせ!』は目指しています。

使い方

校内の様々な場所に掲示する「貼り紙」を想定し、
SDGsの17のゴールと、北海道における様々な取り組みを
イラストをまじえながら紹介しています。
PDFをプリントアウトしてお使いください。



小学生のみなさんへのメッセージ

北洋銀行から

紛争、貧困、気候変動、感染症。人類はいま、これまでにない
数多くの課題に直面しています。また、私たちが生活する
北海道でも、世界に誇る豊かな自然環境が地球温暖化など
によりおびやかされています。
そのため、世界中の様々な地域や立場の人々が話し合い、2030年
までに達成すべき具体的な目標を立てました。それが「持続
可能な開発目標=SDGs」です。簡単に言うと、私たちの暮らしや
地球を守りながら、いろいろな問題を解決して、豊かで幸せな
未来をつくるために必要な目標(ゴール)の事です。
「私たちがこれからも地球で暮らしていくために、何をしたら
いいだろう？」
地球や北海道の未来のため、そして、みなさん自身の未来のために、
今みなさんにできることを考え、行動していくことが大切です。
ぜひ、この教材でそのヒントを見つけてほしいと思います。
一緒にSDGsについて学んでいきましょう!

株式会社 北洋銀行 取締役頭取 安田 光春

北海道大学から

「宇宙船地球号」という言葉があります。宇宙から見ると、地球
はとても小さく孤独でさみしい宇宙船のようなものです。
私たちの宇宙船の中では、いろいろな文化を持ったり、いろ
いろな考え方を持ったり、いろいろな民族の人たちが一緒に
暮らしています。ちょっとけんかしたからといって、簡単に
宇宙船から逃げ出すこともできません。
現在私たちの宇宙船の中では、資源をめぐる争いがあり、
差別や格差があり、船内の温度も上昇しつつあります。こんな
状況ではいけない、とみんなが気づきはじめました。すべての
人のための宇宙船地球号であり続けるために、2015年に
みんなが決めたのがSDGsという目標です。
宇宙船地球号の船員みんなが、SDGsを理解し、いつも
他の船員のことを気にしてくれるやさしい人になってほしい
と思っています。
北海道大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

北海道大学理事・副学長(国際、SDGs担当)
北海道大学サステイナビリティ推進機構 SDGs事業推進本部 本部長 横田 篤